

開学70周年記念事業地域連携企画展

沖縄の未来を牽引する 次世代育成コンソーシアムの構築

令和3年度戦略的地域連携推進経費地域協働プロジェクト推進事業

琉球大学 教育学部
濱田栄作

背景 ～学校に求められる新しい学びと社会との連携・協働

生産年齢人口の減少やグローバル化の進展，絶え間ない技術革新等により，社会構造や雇用環境が急速にかつ大きく変化しています。

このような，将来を予測することが困難な時代を生きる子どもたちには，一人一人が持続可能な社会の担い手として，質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことが期待されています。

学校現場では

- 『よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る』（平成28年中央教育審議会答申）という目標を，学校と社会が共有し，連携・協働しながら，新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。
- 特に，高校では，これまでの「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更となり，さらに「理数探究」や「地理探究」などの探究系科目が新設され，課題を自ら見出し，探究する学びが重視されています。

本事業では，高校での探究的な学びを加速させるために，県内高校と高等教育機関である琉球大学が連携し，さらに自治体，産業界等が協働するコンソーシアムを構築し，将来の沖縄を牽引する人材の育成を目指します。

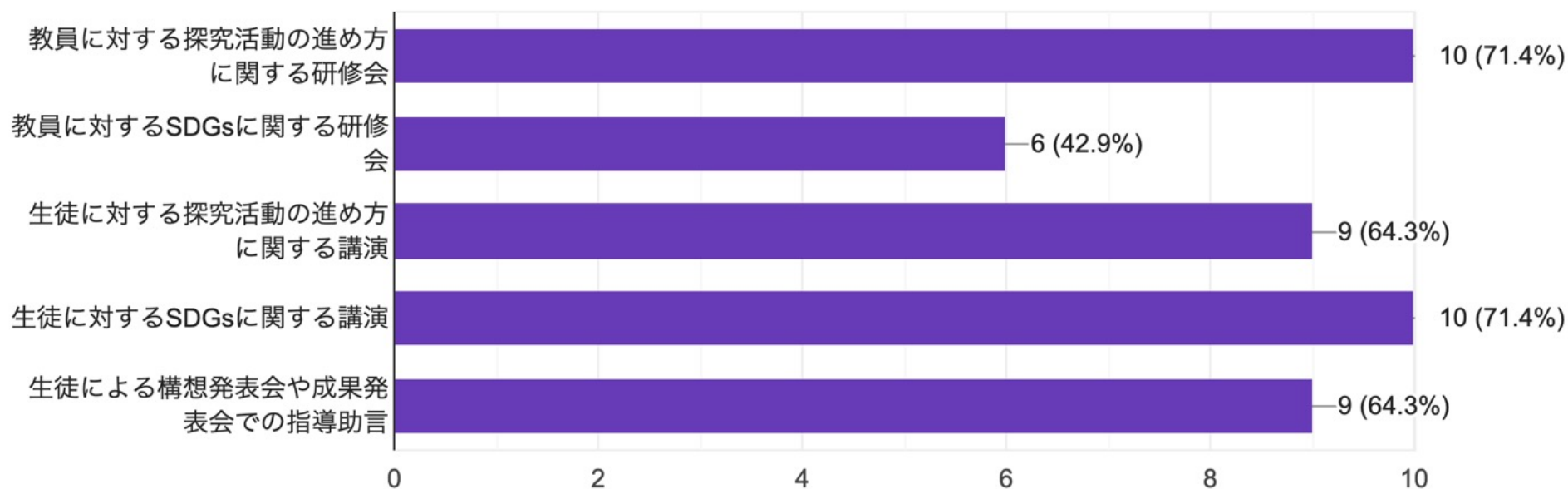
探究型学習に関する課題

【課題①：探究型学習の指導・評価】

探究型学習において、教員には生徒の気づきを促し、生徒の主体性や問題意識を育む「**学びのファシリテーター**」としての役割が求められています。

しかし、高校教員を対象に実施したアンケート調査では、7割以上の教員が探究学習において「**指導内容に不安がある**」「**生徒への評価が難しい**」といった課題を抱えています。

また、探究活動を進める上で大学に求めることについては、探究活動の進め方やSDGsに関する教員研修会に加え、生徒への直接的な指導も求められています。



探究型学習に関する課題

【課題②：探究に向き合う生徒のモチベーション】

探究型学習では、生徒が自ら問いを立て、課題解決のためのプロセスを考えることで、課題発見や問題解決に必要な能力を育みます。

そのため、生徒の主体性や問題意識といった**内発的動機が活動の原動力**となりますが、生徒の中には、社会や地域課題への**無関心な態度**や、大学受験と直結しない科目に対する**無気力**も見られます。

探究は活動を通して自己の生き方を考えていく学びでもあり、キャリア形成としての効果も期待できるので、そのことを**生徒が実感できる手立て**が必要です。

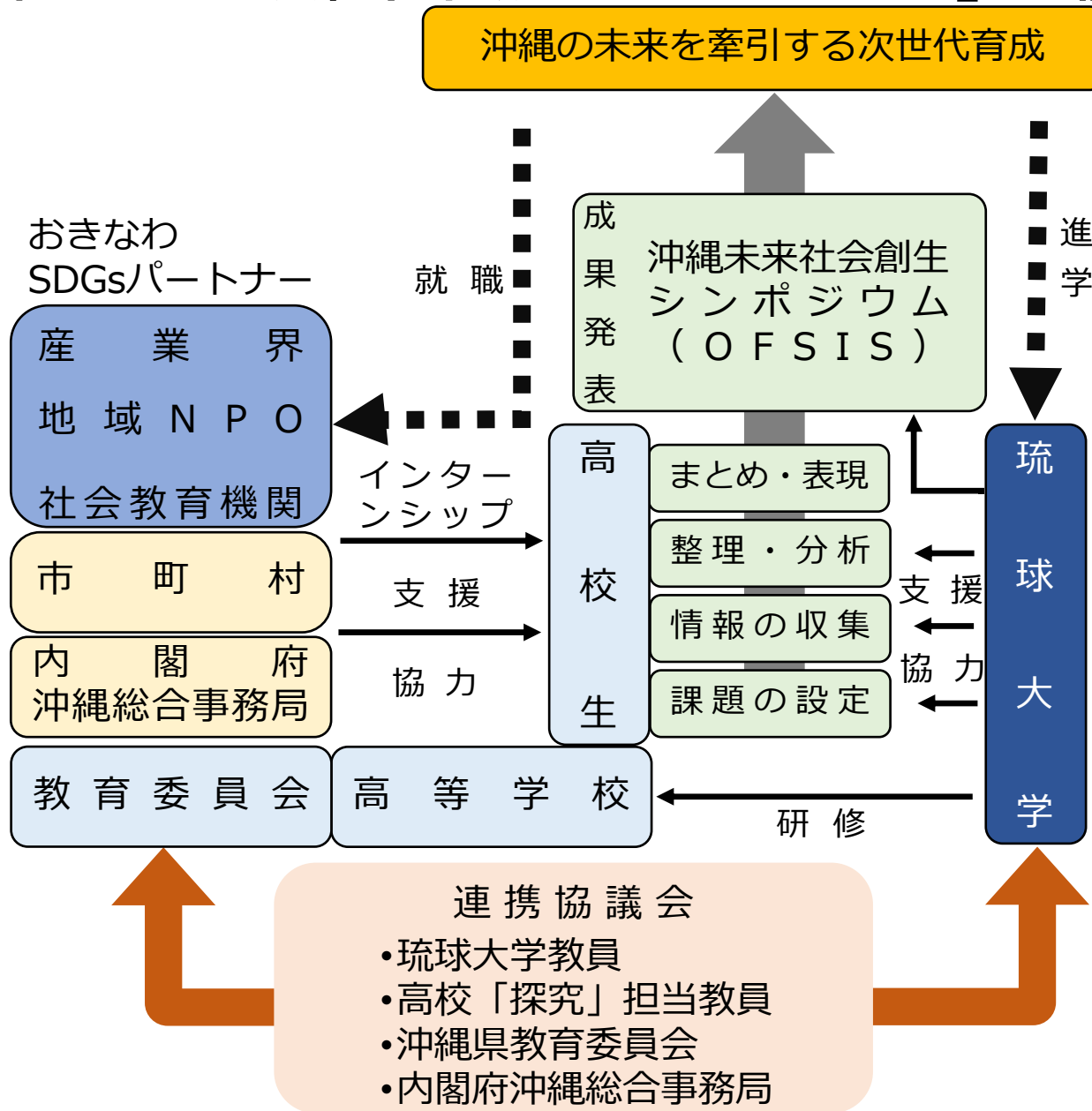
【課題③：校外機関との連携】

「**社会に開かれた教育課程**」を具現化する探究の学びには、指導にあたる教員を中心に地域との連携をはかる必要があります。

しかし、教科指導（授業）の合間に、大学や自治体、産業界等との**連携を構築するのは極めて困難**です。

これらの課題を解決し、高校での探究的な学びを加速させるために、県内高校と高等教育機関である琉球大学が連携し、さらに自治体、産業界等が協働するコンソーシアムを構築し、将来の沖縄を牽引する人材の育成を目指します。

『探究学習を通じた次世代育成コンソーシアム』の構築



探究学習の成果を発表し合い，生徒間の交流の場として 『沖縄未来社会創生シンポジウム』を開催

日時：2019年12月8日（日）
 会場：琉球大学教育学部
 主催：琉球大学
 共催：沖縄県教育委員会
 後援：内閣府沖縄総合事務局
 沖縄エネルギー教育地域会議
 （資源エネルギー庁）

実行委員会：

委員長	杉尾 幸司	大学院教育学研究科 教授
委員	黒島 直哲	沖縄県教育庁県立学校教育課 指導主事
	小野寺 清光	教育学部 教授
	石川 隆士	国際地域創造学部 教授
	福本 晃造	教育学部 准教授
	齊藤 由紀子	教育学部 准教授
	城間 吉貴	教育学部 講師
	中村 元紀	沖縄県立球陽高等学校 教諭
事務局	濱田 栄作	教育学部 教授

発表校	発表件数	発表者数
那覇西	1	3
球陽	9	38
那覇国際	10	44
向陽	4	16
計	24件	101名



- ・ 貧困・平和・環境・災害・観光・文化など，実生活・実社会と関わりのあるテーマが多数発表
- ・ 探究活動に取り組んでいない高校生や発表校以外の高校教員，大学教員，大学生，保護者が参加し，総勢146名の参加者による活発な議論

日時：2020年12月14日（月）～25日（金）
会場：Web 発表大会（オンデマンド）



OFSIS2020

ホーム コザ高校 球陽高校 那覇国際高校 那覇高校 向陽高校A 向陽高校B 向陽高校C 向陽高校D 宮古高校 八重山高校

沖縄未来社会創生シンポジウム2020

(Okinawa Future Society Initiative Symposium 2020)

Web発表大会

令和2年12月14日（月）～25日（金）

主催：国立大学法人 琉球大学 共催：沖縄県教育委員会
後援：内閣府沖縄総合事務局 沖縄エネルギー教育地域会議

沖縄未来社会創生シンポジウムとは

現在、世界の政治や経済は、2050年時点の未来社会が抱える課題を予測し、その対策に動きはじめています。この2050年代の社会の中心を担うであろう高校生などのユース世代には、地域や世界で発生する諸課題を自らの問題として捉え、その課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造できる担い手としての豊かな素養が求められています。そこで、環境や社会の様々な課題発見とその解決につながる研究や調査などで得られた成果を発表し合い、活発な意見を交え、ともに学び合う、学校を超えた生徒交流の推進を目的とした沖縄未来社会創生シンポジウム(OFSIS)を開催します。

新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた会場での開催は断念し、Web発表大会として開催することになりました。期間中であれば、いつでも閲覧できます。各発表へのご質問やご意見は指定のコメントフォームから入力できます。コメントは事務局がとりまとめ、後日、発表者にお伝えします。なお、発表資料は発表者の著作物ですので、ダウンロードしてご利用はおやめください。

OFSIS Okinawa Future Society Initiative Symposium
沖縄未来社会創生シンポジウム

Web発表大会

期間 2020年12月14日（月）～25日（金）

発表校	発表件数	発表者数
コザ	7	40
球陽	9	33
那覇国際	12	58
那覇	4	5
向陽	79	159
宮古	7	34
八重山	3	12
計	121件	341名



OFSIS2020

ホーム コザ高校 球陽高校 那覇国際高校 那覇高校 向陽高校A 向陽高校B 向陽高校C 向陽高校D 宮古高校 八重山高校

コザ高等学校

1

LGBTが理解される明るい未来について

備保 凌香, 伊佐 美紅, 仲本 悠輝, 伊佐 夢可, 富岡 百, 玉城 沙恋

コメントフォーム

参加者数：1,091名（生徒のみ）

- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンドでの開催
- 期間中であればいつでも閲覧できるので、授業の一環で多くの生徒が参加し、他校の取組みや成果について学習

生徒の探究テーマとSDGsとの高い親和性

年度別発表テーマ頻出語

2019年	回数	2020年	回数
沖縄	3	コロナ	51
世界	3	世界	10
格差	2	医療	9
観光	2	経済	8
教育	2	現状	7
島	2	対策	7
日本	2	沖縄	6
貧困	2	感染	6
問題	2	観光	5
		各国	4
		教育	4
		現場	4
		社会	4
		人	4
		生活	4
		解決	3
		海洋	3
		健康	3
		産業	3
		発展途上	3
		農業	3
		被害	3

SDGs ゴール	タイトル例
1 貧困	子ども食堂を本当に必要としている人とそのマッチング
2 飢餓	持続可能な農業の実現で飢餓をなくすことはできるのか？
3 健康と福祉	新型コロナウイルスによる医療従事者への影響
4 教育	教育格差と政治的要因の関わり
5 ジェンダー	プリクラを男性のみで入るためには-ジェンダー平等の観点から考える-
6 水とトイレ	3MYからできること～海と大気を守るため～
7 エネルギー	圧電素子を利用した振動発電の活用例調査
8 働きがい・経済成長	KAROSHI～過労死について理解を深め防止に努める～
9 産業と技術革新	IT化を進めたら農業の人手不足は解消できるのか？
10 不平等	紛争と無戸籍の子供たちの現在の深刻な状況からみえること
11 まちづくり	島内の交通手段を充実させることで不便さが改善され観光客にとっても魅力的な島になるのか？
12 つくる責任・つかう責任	学校給食におけるロスの現状と課題
13 気候変動	地球温暖化対策への一滴
14 海の豊かさ	ビーチの環境問題は、観光客が減少することで解決するのか？
15 陸の豊かさ	皆で防ごう！赤土流出
16 平和と公平	ぬちどうたからを世界へ「沖縄戦を観光資源に」
17 パートナリーシップ	情報の共有が未来へつながる

コンソーシアムの概要

- 将来の地域を牽引する人材を育成するために、高校と高等教育機関（琉球大学）、自治体、産業界等が協働する**コンソーシアムの構築**を目指します。
- 実施に際しては、琉球大学教員や高校教員（離島を含む）、沖縄県教育委員会などが有機的に連携し、また、高校との連携に前向きな県内の企業・団体の「**見える化**」を行い、**インターンシップ**を視野に入れた探究型学習を目指します。
- 高校教員を対象とする研修会や、生徒が取り組んだ成果を発表し、**生徒間の交流**の場となるイベントとして、「**沖縄未来社会創生シンポジウム（OFSIS）**」を開催します。

期待される波及効果

- 生徒の**探究テーマはSDGsと高い親和性**があり、SDGsを共通言語としたコンソーシアムを構築することで、沖縄におけるSDGsに向けた取り組みが加速されることが期待されます。
- 成年年齢の引き下げにより、高校生にとって政治や社会がより身近なものになります。地域や社会の課題をテーマとした探究活動は、**国家や社会の形成に積極的に参画するきっかけ**となります。
- 沖縄県の高校生の大学等進学率は、約4割で全国最下位です。また、自分のキャリアについて十分に考える（知る）ことなく進路を選択し、自己のキャリア形成に躓く生徒もいます。本事業は、生徒に進路選択の主体性をもたらし、**キャリア形成の道標**となることが期待されます。